「川と街づくり国際フォーラム」基調講演より

夢を叶えた街

検証 ―― アメリカ・サンアントニオ

リバーフェスタ in とやま 2003

リチャード・ハード氏●テキサス大学で植物学学士号取得。'81－'98までサンアントニオリバーウォーク、市洪水対策の管理責任をとる河川管理監督官を務める。現在は公園全体の管理者。

夢のリバーウォークはこうして誕生した。

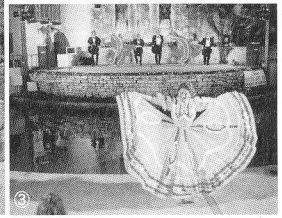
▲クリスマスシーズンに入ると、リバーウォークでは聖歌隊のキャンドルサービスと水上パレードが厳かに行なわれる。

河畔に人々の笑顔 都心のオアシス リバーウォーク

アメリカ南部のテキサス州にサンアントニオという小さな川があります。ところがこの小さな川が、年間700万人以上の来訪者で賑わう観光都市・サンアントニオの発展に巨大な影響を及ぼしてきました。中心部を曲がって流れる川辺りには、レストランやホテルや店が並び、道路から5メートル下へ下りると、それは別世界のように広がっています。緑豊かな河畔のこの公園は「サンアントニオ・リバーウォーク」と呼ばれ、世界有数のコンベンション都市となったサンアントニオの大きな魅力になっています。

現在、川辺りにあるアーネソンリバー劇場は1年を通して利用されており、夏の間は毎晩イベントが催されます。一週間のうち5日は「フィエスタ・ノーチェ・デル・リオ」というスパニッシュダンスと音楽が上演されます。クリスマスシーズンは12万5000ものライトが木にとりつけられ、合唱隊が水上でクリスマスソングを歌うなど大変ロマンチックな季節として、もともと来訪者の比較的少なかった12月が今では人気のシーズンの一つになっています。

①自然の中のレストランは、夜になってもざわめきが絶えず人々を魅了する。②道路レベルから5メートル下りるとリバーウォークの別世界。③リバー劇場で行なわれるスペインのショーは人気アトラクション。④リバーウォークの最大の魅力は街中にあり、ホテルや店と一体になっていること。



計画段階から愛情をもって関わってきた市民

リバーウォークの成功の鍵、歴史をひもとくと、サンアントニオ川とこの街に対する市民の深い愛情は19世紀の終わり頃から顕著になりました。大きな洪水、そして悪化する川の外観から論争が起こり、河川美化への提案が多く出されたのです。

そんな中、地元の建築家ロバート・ハグマンは、保全委員会と市長にリバーウォーク計画を提出しました。商業の発展だけでなく川をとりまく美しい自然の維持をも視野に入れた治水対策は人々の興味をひきました。これが今日の街の始まりです。関心を持った市民は計画段階から積極的に参加してきています。失敗もありましたが、議論の末の妥協案によって被害は最小限にとどめられてきました。時には資金もなく権限もなく、ただ行動を起こすため計画は模索されました。計画が正しいものであればお金は後からついてきます。夢が叶うまでには、時には10年、もっとかかるかもしれません。私の講演が富山の発展に役に立つことを願っています。GL

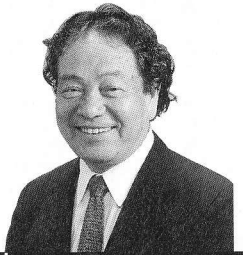
サクラパックス(株)

シンポジウム

川と街づくり

River Cityの可能性を探る

市民に愛され育まれ、旅行者が川と触れ合う楽しさを満喫できる水辺空間。県都・富山を舞台に、川を中心にした都市軸の展開を語り合う。



コーディネーター・渡邊 明次氏
関東学院大学建築学科教授

リチャード・ハード氏
サンアントニオ
リバーウォーク公園管理者

白井 芳樹氏
元富山県土木部長

松井 幹夫氏
まちづくりとやま
代表取締役副社長

吉友 嘉久子氏
(財)砂防・地すべり技術センター
理事

水の景色の美しい街

白井 昭和60年に公表された「富山21世紀水公園プラン」は、神通川を軸にして、中心部を流れる松川、いたち川、そして駅北の富岩運河に着目し、水と緑のネットワークを整備していこうというプランでした。その時たまたま私が担当課長をしておりました。

渡邊 富山はサンアントニオと同じ、まさしく川が街の中心をなしている都市だということが分かります。

吉友 先日久しぶりに桜の季節以外の松川を歩いてみたところ、人通りはぱらりとしかなく、もっと河川空間に人を惹きつける仕掛けをしていかなければ、という思いがしました。今の桜は30～40年経ちますともう見られなくなります。サンアントニオのように年間通して感動を与えるものがなくては。

渡邊 ノーベル賞の田中さんもこの松川辺りを散策されたと聞いております。水は心と体を清くしてくれるのです。

松井 あと10年すると新幹線が富山に来る、ということで、昨年、商工会議所は「富山市価値創造プロジェクト」というものをまとめられました。その5つのテーマの中に「水恵・水景」、水を生かした試みが提案されています。水の恵み、美しい水の景観。市民をはじめ行政、商業者、互いに連携をはかりながら川を生かした街づくりを進める。

渡邊 21世紀は官民どちらが高いも低いもなく、互いに協力しないと街づくりはできませんね。

チャーミングな仕掛け

白井 富山県は、黒部峡谷、氷見、高岡、五箇山などが有名で、富山市はそうした観光地への中継点になっているきらいがあります。けれど松川、いたち川、富岩運河、それぞれに特徴を持った川は大きな可能性を秘めている。街中にあって自然と歴史をたたえている川と運河、これを富山市の都市型観光の拠点としていきたいですね。「水辺の道づくり」、川と川、運河をつなぐ「船の道づくり」。そして買物や食事が楽しめる「川沿いの街づくり」ですね。

渡邊 先日、遊覧船に乗りましたが、川は比較的きれいですね。手を水に入れられることが嬉しかった。そういう場所が街の中心にあるということは、かけがえのない財産だと思います。

吉友 私は最初にしてほしいチャーミングな仕掛けは水の浄化。いま渡邊先生がきれいだっておっしゃっていましたけど、雨が降って水位があがると溢れた水が汚水と一緒に松川に流れてくるんです。でも富山はサンアントニオにも真似できない素晴らしいロケーションを持っています。立山を望める大きな橋を作って、そこにベンチを置き、小さなステージにもなって演奏会もできる、そんな舞台作りができるんじゃないかと。これはもう声をあげて言うことが大事。何十年か先を見据えて何とかやってみましょうよ、と一歩でも

■渡邊明次氏
博士（工学）。関東学院大学建築学科教授。関東学院大学建築学科、イリノイ工科大学大学院卒。著書に『ミース・ファン・デル・ローエ』『世界の村おこし・町づくり』他。

■白井芳樹氏
香川県出身。東京大学工学部都市工学科卒、建設省入省。'96－'01富山県土木部長、公営企業管理者を経て現在(財)道路空間高度化機構常務理事。著書『とやま土木物語』

■松井幹夫氏
法政大学法学部卒業後富山市採用、人事課長、中央卸売市場長、商工労働部長等を歴任後2002年4月から㈱まちづくりとやま代表取締役副社長。法政大学評議員 等。

■吉友嘉久子氏
横浜市出身。放送大学卒、北日本放送ラジオパーソナリティを経てOFFICE・よしとも設立。(財)砂防・地すべり技術センター理事。著書に『立山の崩れと生きる』等。

朝日印刷(株)

進んでいかないと机上の空論になってしまい実現しないと思うんです。

渡邊　ある街の成功例として、毎月1回色々なイベントで試しているんです。必要なものは後から作っていく。貨物船を入れなくなった港の跡地なんですが、来なさいと言ってるだけじゃ来ない。例えば古本市など、色んなイベントを作られるとよいかと思います。

吉友　あと生き甲斐作りで川のことをいっぱい勉強していただいて、川の管理や掃除など、楽しくボランティアをしていただく。わくわくするようなデザイナーズコスチュームを作って。

渡邊　街を活性化させる時は市民の協力なくしてはできないわけです。

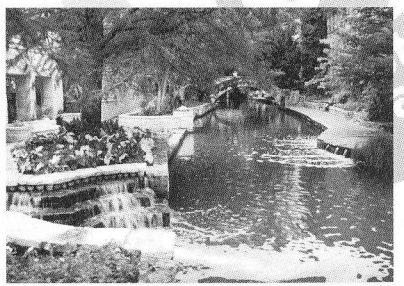
松井　市民の方の団体は色々あるんです。皆さんそれぞれ一生懸命やってらっしゃる。ですが、残念ながら横のつながりがちょっと弱いと思うんです。これからは一歩前へ踏み込むという姿勢が大事だと思いますね。

会場からの声

渡邊　今回、ご来場の方から質問をいただいています。滝田さんという方から「いったい市民はこういうことに対してどういうことをしたらよいのですか?」ハードさん、いかがでしょう?

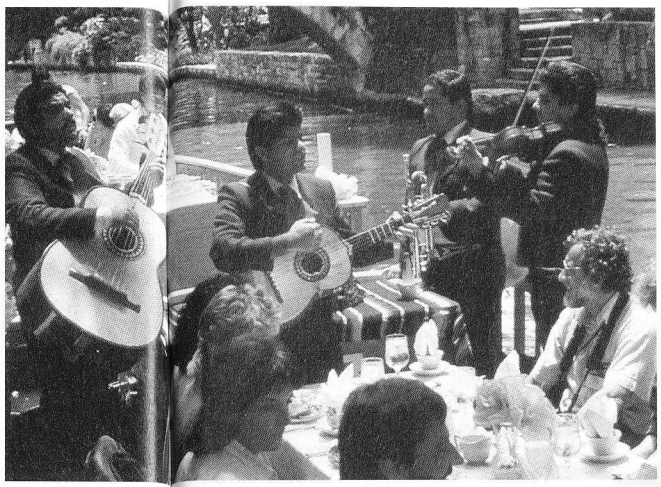
ハード　まず最初に市民が参加しなければならないと思います。サンアントニオの市民は影響力の大きいグループを作って、その人たちが皆の声を代表していくということをします。市議会の方に接触して、市議会を通して意見を述べていくということも必要かと思います。

渡邊　組織だつことが大事だということですね。もう一つ、芝さんという方から「リバーフロントは4メートル50センチ地上レベルより低いわけですが、川はどういう対策をとればいいのですか?」これは白井さんにぜひ。



▲リバーウォーク沿いには滝が流れ、すがすがしい空気は散歩する人々の心を満たす。

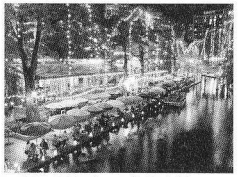
白井　要は川を掘り下げる。治水の安全を確保したうえで、土木の技術で言えばサンアントニオにも負けないもの、それ以上のものを我々は持っていると思います。ですが、ああいう風に自由に川を下げたり道路を掘り下げたりする場合、それまでの道路沿線の土地利用の調整はどうされたのかな、と。制度、社会の在り方が違うのでは。



▶ 川沿いに魅力的なカフェが並び、街の中心部なのにリゾート地のようなゆったりとした時間が流れている。

ハード　川を掘り下げるということですが、堤防を上げるという方法もあります。草木や木々を植えたりするわけですね。

渡邊　植物を植えると酸素が出ます。特別な環境を作ることがいちばん大事じゃないか、ということですね。リバーフロントとして作る場合、直線がいいというわけではない。2キロ、3キロを飽きさせないようにエンターテイメントして、景色を変えていくわけです。谷があったり、中ノ島があったり、滝があったり。



▲サンアントニオの夜景

人にやさしい都市

渡邊　サンアントニオは薬剤のメッカです。それにまつわるシンポジウム、コンベンションが年間300、毎日のように行なわれています。人間科学という非常に大きなテーマを持ちながら都市づくりの基盤整備が行なわれた。都市自身が人にやさしい。結果、7万8000の人たちがサービス産業で働くようになった。これが街づくりの成果としての目的なんですね。富山も世界的に有名な薬、それに関わる科学のメッカになるだけのポテンシャルを持っている。工業誘致、コンベンション誘致が積極的に行なわれると、参加した人たちは市民が一番親しんでいるものに参加する。旅するということは、そこに住んでいる人たちと一緒の生活感、喜びを分かちあいたいということなんですね。

ハード　昨日、松川、いたち川を見て来ました。基本的な構造物はもうあります。歩道、植物、景色。それをもっとアピールし、人々がもっと来たいものにすることです。歩いてみると滑りそうな歩道もたくさんありました。そういうところをきれいにすることが大事だと思います。それにはあまり費用もかからないと思います。私がこのプロセスで大事だと思うのは、マスタープランを作るということです。川に関する基本構想を作り、それについて皆が対話を始める。一つ一つのパズルが全部一緒になった時にこの夢が叶うのだと思います。どんどん人が集まり、商業も集まる。大きな可能性が川にはあると思います。GL